

第 36 回歴史探訪の会ご報告

実施日 平成 25 年 9 月 18 日
場 所 奈良 田原本周辺
案内者 内海春樹 (2579)

古事記編纂者^{おおのやすまろ}“太安万侶”の故郷「田原本」を訪ねて

- ・コース 近鉄笠縫駅（下ツ道経由）小杜神社—多神社（資料館）—泰楽寺
（昼食）—陣屋跡 町役場—鏡作神社—浄照寺—近鉄田原本駅

台風一過の秋晴れの下、近鉄笠縫駅に 28 名が集合。まず駅前の広場で「古事記」についての説明を受けた。



古事記の編纂

日本最古の歴史書である「古事記」が完成して昨年で丁度 1300 年になった。

677 年 40 代天武天皇は、それまでの天皇家について記載された書物や、諸豪族の成り立ち、神話伝説などを詳しく調べ正しい書物を作り後世に伝えたいと思い、聡明な舎人の^{ひえだのあれ}“稗田阿礼”に記憶させた。

しかし完成する前に天武天皇は亡くなり中断していたが、30 年後元明天皇が文才に優れた文官“太安万侶”に編纂を命じ、稗田阿礼から語り伝えられた内容を記述、西暦 712 年正月に完成させ元明天皇に奏上した。

内容は“上・中・下の 3 巻”構成で、上巻は神代から皇室誕生につながる系統を神話で満たし、なかでも印象深いのは、「天照大神の岩戸隠れ」と、「須佐之男命のやまたのおろち退治」の物語りが有名だ。

中巻は初代神武天皇から 15 代応神天皇まで、下巻は 16 代仁徳天皇から 33 代

推古天皇までの歴代天皇の系譜や治世における出来事や伝承等が書かれている。

注目すべきは、自然・人間・文化の起源を超自然的な神々に関連させ、伝説や多数の歌謡を含みながら天皇を中心とする日本の統一の由来を物語っている。



説明の後、古代の官道の一つで聖徳太子が斑鳩の宮から飛鳥の宮へ馬に乗って通勤した「下ツ道」を散策する。

しばらく進むと、これから行く「多神社」の“一の鳥居”と“灯籠”が現れる。

鳥居には「正一位」の額が掲げられ、灯籠は5メートル程の高さがあり明かりを灯すための石造りの階段がついている。



1. 小杜神社（神になった太安万侶）

太安万侶について

古くから稲作が栄えた“田原本”界隈は、古代の有力氏族・多氏の拠点だった。『古事記』の撰録者とされる太安万侶は、その多氏の一員。

父の代から天武天皇の側近として高い地位にあった。

昭和 54 年に奈良 田原の里の茶畑から偶然発見された墓と銅版の墓誌は太安万侶の物である事が判り大きな話題となった。その墓誌には簡潔に「住所・官位・姓名・亡くなった年月日等」を記されていた。

墳丘は直径4. 5M の円墳と推定され、墓は底に木炭を敷き墓誌を置いた上に木櫃の棺を安置、四周と上面を木炭で覆っていた。

その上を土で版築状に硬く突き固め、木櫃の中には火葬骨と真珠等が収めてあった。

奈良時代上級官人の墓として完全な状態で明らかにされた例は極めて稀である。



2. 多神社（多坐弥志理都比古神社 おおにいますみしりつひこじんじや）

奈良盆地のほぼ中央に鎮座し、広大な社域を誇った大和屈指の多一族の氏神。社伝によれば主祭神は神武天皇の第二皇子で多氏の祖先とされる神八井耳命(かむやいみみのみこと)でその他に初代・神武天皇、綏靖天皇、姫御神の4神を祀る。

拝殿の奥に鎮座する4神の本殿は古色なたたずまいで見る人の心を打つ。

三輪山-多神社-二上山はほぼ東西一直線で、当神社は春・秋分の日には両山の山頂からの日の出と、日没を拝する特別な位置にある。この事により農民たちが田植えや稲刈りの時期を目安とした事からこの地に弥生集落が開いたのであろう。

神社のご厚意で境内にある資料館を見学、周辺の史跡から発掘された土器などや太安万侶関連資料を勉強することが出来た。



3. 秦楽寺(じんらくじ)

聖徳太子に仕えた秦河勝(はたのかわかつ)が太子から賜った千手観世音菩薩立像を祀るために建てたと言われる。

渡来人である秦河勝は優れた技術と武門でも活躍し、聖徳太子が成人するまで舎人として仕えたと共に厳しく指導した。

弘法大師もこの寺で修行し、梵字の「阿」字池を造営している。



4. 田原本寺内町と平野氏陣屋跡

織田信長亡き後、柴田勝家と羽柴秀吉との天下分け目の賤ヶ岳の戦い(1583年)で、加藤清正・福島正則らと共に七本槍の一人として活躍した平野権平長泰は秀吉から大和の国(田原本)に五千石の領地を与えられた。

2代目長勝が南北 350m 東西 120m、の堀と土塁で囲まれた陣屋を築くと共に、浄照寺を中心とした3町四方の寺内町を形成した。町は寺川を通じて大坂・堺との商いが盛んで「大和の大坂」と言われる程賑わい、その面影は町名や鍵岡家の屋敷や昔の街道を表す道標に名残が見られる。



鍵岡家は明治時代から文具や教科書などを取り扱う大店で、かつてシャープの電卓やレジスターなどの代理店でもあったそうだ。
その名残に、ショーケースには「そろばん付き電卓」が置かれ、皆懐かしがっていた。

5. 鏡作坐天照御魂神社

古代の工人集団・鏡作部たちが住み着いた場所。
祭神は鏡作氏の遠祖・石凝姥命(いしこりどめのみこと)などの三座。
石凝姥命(いしこりどめのみこと)は、天照大御神がお隠れになった天の岩屋の前で神事を行う際に、三種の神器の一つ・八咫鏡(やたのかがみ)を作ったとされる。
やがて天照大御神は天孫降臨で伊勢へ鎮座。石凝姥命もこの地に降り、子孫・鏡作部(氏)が作った鏡が神社に神宝として祀られている。



6. 浄照寺

田原本寺内町の要の大寺院

真宗本願寺派大和五か所御坊の一寺。慶安4年(1615年)二代目領主平野長勝が他寺を移築。
表門は秀吉ゆかりの伏見城の城門移築とされる。



今回の例会は好天に恵まれ、たわわに実った稲穂や、道端に咲く彼岸花・萩の花など“待ちに待った秋”を堪能することができた。

